

都市再生整備計画(第2回変更)

ぎんが ちく
銀河ホール21地区

ほっかいどうあしよろちよう
北海道足寄町

平成 24 年 3 月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	足寄町	地区名	銀河ホール21	面積	2.2 ha				
計画期間	平成	20 年度	～	平成	23 年度	交付期間	平成	20 年度	～	平成	23 年度

目標 大目標: 緑輝く大地に人のやさしさがあふれるまちの創出 目標1 「道の駅」機能の充実と本町の交通、商業、観光等の中心的役割の継続を目指す。 目標2 道路整備により、銀河ホール21東側地区と西側地区とのアクセスを確保し、地域住民の利便性の向上を図る。 目標3 交通ネットワークの拠点整備とともに来町者などが気軽に休める銀河ホール21周辺を目指す。

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>足寄町は東に阿寒国立公園、西に大雪山国立公園が隣接しており、あしよろ銀河ホール21(旧足寄駅)前で交差する国道241号、242号は北海道周遊観光の主要動線の一つである。当町の公共交通の中心的役割を担ってきた旧足寄駅は、町内外の人々が往来する場所であったが、過疎化や交通手段の変革により平成15年3月の阿寒方面、平成17年9月の上士幌方面の路線バス、平成18年4月にはふるさと銀河線の鉄路が廃線となり、現在は、鉄道代替交通の帯広・陸別線路線バスだけが唯一の公共交通となっている。</p> <p>又、平成16年8月銀河ホール21周辺が当町2箇所目「道の駅」に指定された後は阿寒国立公園等を訪れる観光客を中心に利用者が増加し、特に休日や観光シーズンには施設利用者の駐車場不足となっている。</p> <p>こうしたなか、平成14年度より実施している足寄市街地区土地区画整理事業や国道整備事業と連動させた駅周辺整備の機運が高まり、行政、商工会、観光協会、足寄町中心市街地活性化推進協議会、農協等の代表からなる官民協働による「あしよろ銀河ホール21周辺整備検討委員会」が設置され、「道の駅」機能の充実を図ると共に引き続き当町の交通、商業、観光等の中心的な役割を継続させる積極的な活動がされている。</p> <p>当該計画地区に一部接して、平成17年度から21年度までの5ヶ年計画でまちづくり交付金事業「足寄駅前地区」が、①まちなかの定住人口確保②未利用地の有効利用③道路整備④官民協働のまちづくりを目指して事業展開されている。</p>
課題 ① 「道の駅」銀河ホール21(旧足寄駅)周辺の駐車場確保等の整備。線路により東西に分断されていた駅周辺における土地利用の活性化等に向けた道路整備。 ② 駅舎機能を失った銀河ホール21の新たな利活用(再整備)。 ③ 国道整備(241号・242号)、土地区画整理事業が実施中であり、これらの事業と連動した本町の交通、商業、観光の中心的な役割を継続させる「あしよろ銀河ホール21」周辺のまちづくり。 ④ 銀河ホール21(道の駅)での各種イベントの実施による、町の顔としての商業、観光の賑わいの発生装置としての機能強化。
将来ビジョン(中長期) <ul style="list-style-type: none"> 足寄町第5次総合計画の「緑輝く大地に人のやさしさがあふれるまち」を目指し、①豊かな自然と共生し安心して暮らせる快適なまちづくり②いつまでも健康で安心して暮らせる支え合いのまちづくり③豊かで強い心を育む学びと文化のまちづくり④豊かな資源を生かした活力ある産業・観光と魅力ある商業のまちづくり⑤共に考え共に行動するまちづくりを官民協働で推進していく。 銀河ホール21周辺は古くから本町の交通、商業等の中心的な役割を担っており、当該事業を通じて引き続きその役割を継続していく。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
あしよろ銀河ホール21利用者数	人/年	施設利用者の増加	施設内部の整備及び駐車場の拡充により、施設利用者数の増加を目指す。	116,600	平成18年度	140,000	平成23年度
時間短縮	分	銀河ホール21東側地区と西側地区との連絡時間の短縮	道路整備により、銀河ホール21東側地区と西側地区のアクセス確保、連絡時間の短縮を図る。	10	平成18年度	2	平成22年度
イベント参加人数	人/年	当該地区内での各種イベント参加人数	地場産品、特産品、漬物販売等のイベント参加人数。	7,000	平成18年度	8,000	平成23年度

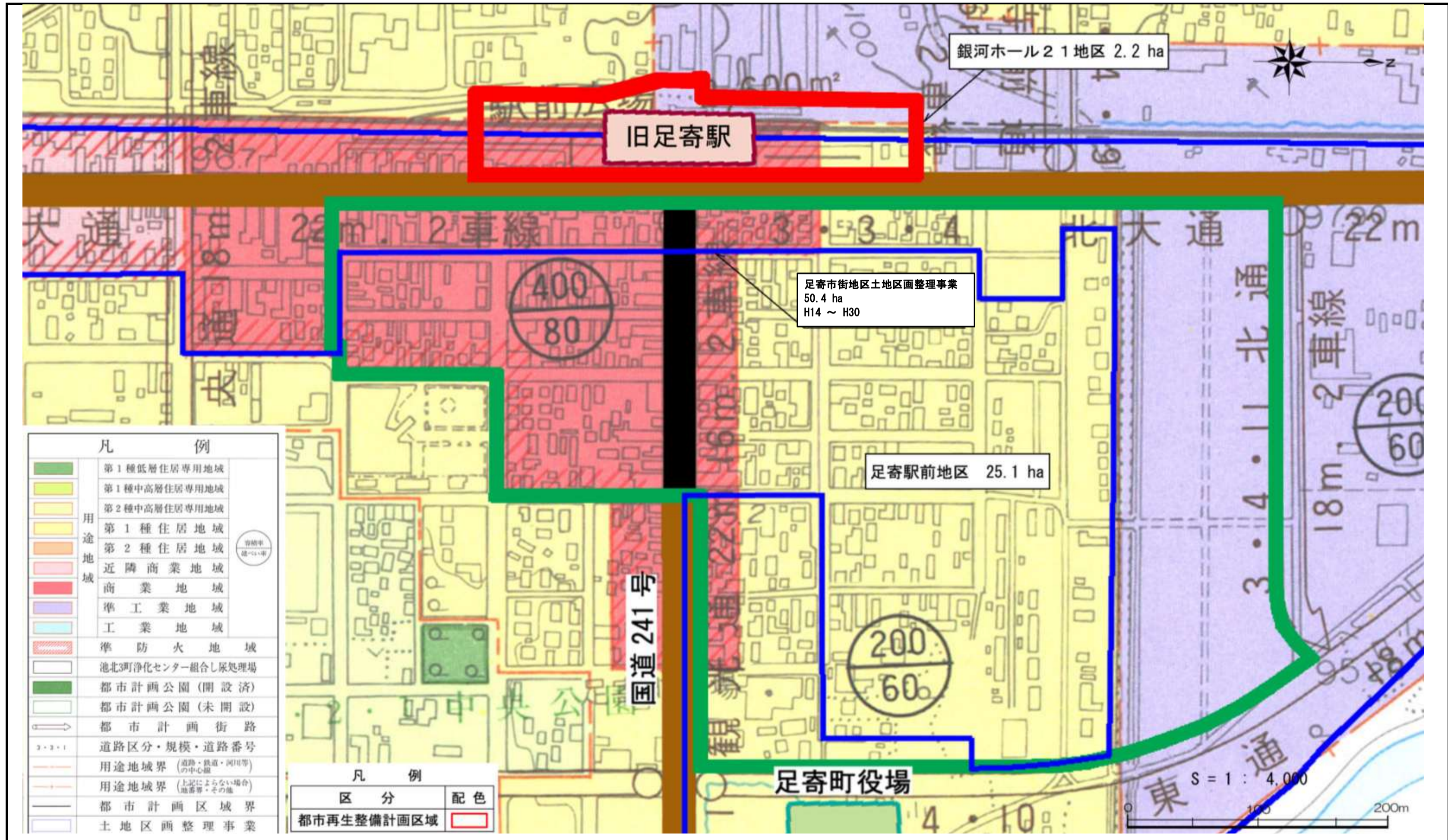
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1(「道の駅」機能の充実) <ul style="list-style-type: none"> 「道の駅」利用者が気軽に安心して滞留できる場の提供を図るため、銀河ホール21周辺の機能整備を行う。 あしよる銀河ホール21の内部改修と多目的広場の整備により、地産地消、産消協働を目指した地場産品、特産物、飲食物等の物販コーナーを充実させ賑わいのある空間を創出する。 	既存建造物活用事業(基幹事業/町)による観光交流センター(観光交流スペース、情報発信施設、外構(広場及び駐車場))整備、地域創造支援事業(提案事業/町)による産消協働支援事業
整備方針2(アクセス確保と利便性の向上) <ul style="list-style-type: none"> 鉄道により分断されていた銀河ホール21東側地区と西側地区を結ぶ道路整備を行い、交通アクセス強化と住民の利便性の向上を図る。 	土地区画整理事業(関連事業/町)による道路整備、国道整備事業(関連事業/国)による国道整備、道路整備事業(基幹事業/町)による道路整備。
整備方針3(まちの拠点整備) <ul style="list-style-type: none"> 鉄道廃止後の駅周辺の整備により、駅の多目的化を図り、より住民や観光客等から親しまれるような空間を目指す。 	国道整備事業(関連事業/国)による国道整備、既存建造物活用事業(基幹事業/町)による観光交流センター(観光交流スペース、情報発信施設、外構(広場及び駐車場))整備、地域生活基盤施設(基幹事業/町)による多目的駐車場の整備。

その他
<p>○継続的なまちづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 当町では、昭和63年に町民が主体的にまちづくりを担うべく「日本足並み会」が設立され、日本各地との交流や国道歩道部や公園への足型プレート設置等多彩な活動が行われている。平成5年には、駅前周辺の商業空洞化に対応した「商業活性化推進協議会」が設立されたが、平成10年に商業のみならず中心市街地全体のあり方を模索するため「足寄町中心市街地活性化推進協議会」に発展改称し現在に至っている。平成13年には緑のまちづくりを進めるために、国、北海道も参加した「足寄町緑のまちづくり協議会」が設立され、植樹等が行われている。平成17年には、足寄町中心市街地活性化推進協議会に「まち並み景観専門部会」を設置し、国道整備に併せた景観のあり方について積極的な活動が展開されている。今後も「足寄町中心市街地活性化推進協議会」がまちづくりの中心的役割を担いながら、各種事業の進め方の改善や関連ソフト事業の取り組みを関係住民と調整を図りながら協働のまちづくりを目指す。 <p>○交付期間中の計画の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道整備事業及び土地区画整理事業との調整を図りながら、各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるため、足寄町中心市街地活性化推進協議会と協働して、事業成果について評価改善を行うためのモニタリングを実施し、情報公開する。

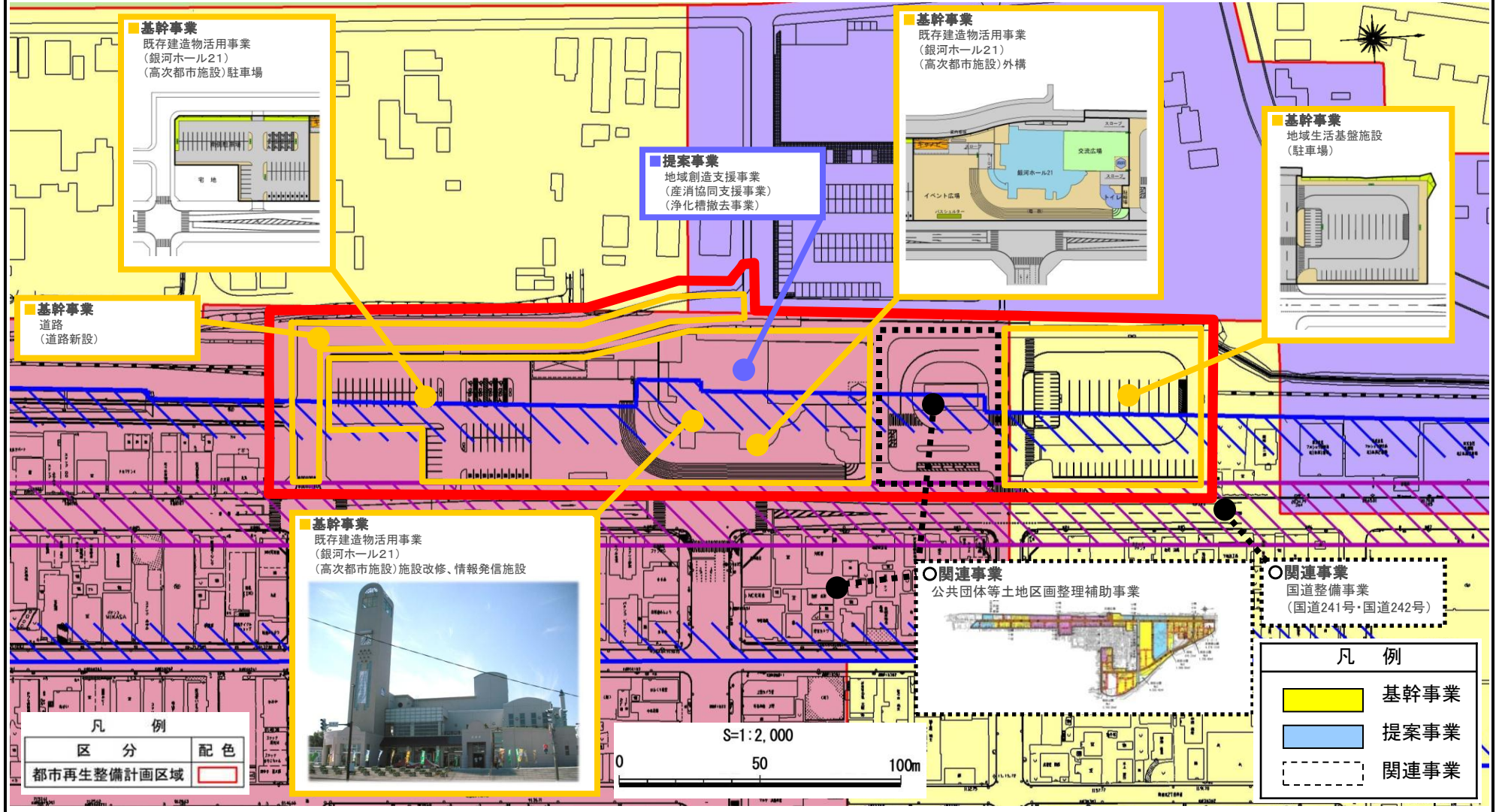
都市再生整備計画の区域

銀河ホール21地区(北海道足寄町)	面積	2.2 ha	区域	南1条1丁目の一部、南2条1丁目の一部、北1条1丁目の一部 北2条1丁目の一部、西町5丁目の一部
-------------------	----	--------	----	-----------------------------------------------------



銀河ホール21地区(北海道足寄町) 整備方針概要図

目標	緑輝く大地に人のやさしさがあふれるまちの創出	代表的な指標	あしよる銀河ホール21利用者	116,066 (平成18年度) → 140,000 (平成23年度)
			イベント参加数	7,000 (平成18年度) → 8,000 (平成23年度)
			住民の利便性	10 (平成18年度) → 2 (平成22年度)



■ 基幹事業
 既存建造物活用事業
 (銀河ホール21)
 (高次都市施設) 駐車場

■ 基幹事業
 既存建造物活用事業
 (銀河ホール21)
 (高次都市施設) 外構

■ 基幹事業
 地域生活基盤施設
 (駐車場)

■ 提案事業
 地域創造支援事業
 (産消協同支援事業)
 (浄化槽撤去事業)

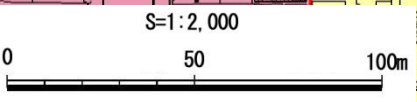
■ 基幹事業
 道路
 (道路新設)

■ 基幹事業
 既存建造物活用事業
 (銀河ホール21)
 (高次都市施設) 施設改修、情報発信施設

○ 関連事業
 公共団体等土地区画整理補助事業

○ 関連事業
 国道整備事業
 (国道241号・国道242号)

凡 例	
区 分	配色
都市再生整備計画区域	



凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業